

平成 29 年度 第 1 回白馬村総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 12 月 5 日 (火)
開会 午後 4 時 00 分 閉会 午後 6 時 00 分
- 2 会 場 白馬村役場 3 階 全員協議会室
- 3 出席者 白馬村長 下川 正剛
白馬村教育委員会
教育長 平林 豊
職務代理 幅下 守
委 員 伊藤 公一
委 員 西澤みどり
委 員 田口 令子

(説明等のために出席した職員)

総務課長 吉田 久夫

(事務局)

生涯学習スポーツ課長 松澤 忠明
生涯学習スポーツ課長補佐兼係長 松澤 宏和
教育課長兼子育て支援課長 田中 克俊
教育係長兼子育て支援係長 鈴木 広章

- 4 協議事項 (1) 平成 30 年度予算編成における重点事項について
(2) 新たな図書館の建設について
(3) 体力年齢向上プロジェクトについて
(4) 子育て世代包括支援センターの開設について
(5) 小学校統合に関する考え方について

5 議事の概要

○開 会

田中教育課長兼子育て支援課長が開会を宣言した。

○あいさつ (下川村長)

皆さん公私ともにお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。日頃より教育委員の皆さんには、次代を担う子どもたちの学校教育から生涯学習、そしてスポ

一ツの推進に向けて真摯にお取り組みをいただいておりますことに感謝申し上げます。

本年度、村では教育委員会に子育て支援課を設置し、0歳から18歳までの子育て業務について教育委員会で一元的に担う機構改革を行ったところであります。また村では現在、平成30年度予算編成作業に着手したところであります。本日は委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、村と教育委員会が意思疎通をはかることで、より一層の効果的な教育行政の推進へとつなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○協 議 （議長は下川村長）

(1) 平成30年度予算編成について

- ・鈴木教育係長兼子育て支援係長が、会議資料により説明した。
- ・松澤生涯学習スポーツ課長補佐兼係長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、平成30年度予算編成についての発言を求めた。
- ・幅下教育長職務代理 ICTの関係で、中学生にタブレットを配布していただき、1人1台タブレットを持つというのは先進的でありがたい。予算化していただいて全員が持てるようになることで、より充実していくのではないかと。また、小学校においては、タブレットというのも難しいので、見やすく使いやすい電子黒板が必要かと思う。増やしていただいているが教室になければ使えないので、学校の希望を聞いていただいて、導入されるようお願いしたい。
- ・下川議長 ICT授業を参観したときに先生が使いこなせていないように感じたので、指導がしっかりできるようにしていただきたい。
- ・田中教育課長兼子育て支援課長 ICT支援員を中学校に配置しているので、小学校にも配置できるよう予算要求をさせていただく。

この分野については、非常に進歩が早く次世代のものを導入するときには、また新しいものがでてきている状態であり、今年度、タブレットについては見極めということで、両小学校のパソコンをリプレースして、タブレットをデスクトップからの着脱式にして、パソコン教室から持ち出して授業で使えるようにしたので、実際の運用状況をみながら児童ひとりにタブレットがあった方がよいのか検討していきたい。

電子黒板についても50～70万円程度する。天井から映すような安価なものもあるので、そういったものでパソコンと連携してやっていった方がよいのか。現在、実物投影機も各校に数台ずつ入れてあるので、その利用状況をみながら考えていきたい。

- ・下川議長 伝建の関係で、当初の考え方の中で土蔵というものは入っていないのか。
- ・松澤忠明生涯学習スポーツ課長 優先順位で居宅から順番にやっている。そのあとに示され、認められているエリアの部分で土蔵が入っている。
- ・下川議長 昔と違って国の補助金が減らされているのか。
- ・松澤忠明生涯学習スポーツ課長 国は同じだが、県が積極的に関わっていないように思う。

- ・下川議長 いつの間にか伝建の土蔵のルール、規則がかわっているのか。調べてみてほしい。
- ・松澤忠明生涯学習スポーツ課長 当初から建物を順番に対応しているところなので、資料を調べて確認していきたい。

(2) 新たな図書館の建設について

- ・松澤生涯学習スポーツ課長補佐兼係長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、新図書館建設に関しての発言を求めた。
- ・下川議長 図書館だけでなく、複合施設として整備するのが現代の主流である。なかなか進展しないが、是非、建設計画を進めて欲しい。

(3) 体力年齢向上プロジェクトについて

- ・松澤生涯学習スポーツ課長補佐兼係長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、体力年齢向上プロジェクトに関しての発言を求めた。
- ・幅下教育長職務代理 運動をしない大人に機会を進めてもらいたい。小さい頃から運動が好きなお子どもは部活に入り、大人になってもいろいろな運動をするが、運動が苦手と感じている子どもは大人になっても接する機会がない。幼児期からの運動プログラムもあり、県教委でも推奨してやるようになっているがそのへんのところも白馬村で取り組めないか。
幼稚園、保育園とあるので難しいと思うがお願いしたい。ただ運動するだけではなく、専門家の方のプログラムを基にしてやってもらうことに意義があるので、幼児期から小学校2年生くらいまで専門の先生にも入ってもらいたい。予算の関係もあるが要望として取り組めるように検討していただけるとありがたい。
- ・松澤宏和生涯学習スポーツ課長補佐兼係長 白馬村スポーツ推進計画というもののが平成27年4月に決定し、基本方針の2番目に「子どもが日常的にスポーツに取り組むことができる環境づくり」というように計画はしっかり作ってあるので、中味が伴ったものを執行していきたい。

(4) 子育て世代包括支援センターの開設について

- ・田中教育課長兼子育て支援課長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、子育て世代包括支援センターの開設に関しての発言を求めた。
- ・下川議長 職員配置について、保健師を1名採用するのかどうか。それぞれ今現在、コーディネーター、相談員、保育士の担当は揃っているのですが、保健師だけが必要になるということか。
- ・田中教育課長兼子育て支援課長 イメージからすると実際に乳幼児全戸訪問を行っているのですが、それを健康福祉課に残っている保健師が今後も担い、それをコーディネートする保健師を子育て支援課の方へもってくるという考えである。
- ・吉田総務課長 療育は、4月以降相談員を考えなければいけない。現時点では、同

じ資格を持っている人がくれば保健師だけでの対応ということになるということか。

- ・田中教育課長兼子育て支援課長 療育は、なかなか小さい村では専門的な臨床心理士という資格を持っている人を雇用することが困難なため、専門的な分野はスクラムネットであるとか外部機関を利用し、そこへつなぐまでのコーディネートに力を入れて保護者の方と密着して、取り組むよう考えている。
- ・幅下教育長職務代理 できたらその療育の相談員を専門性のある人をお願いしたい。今、スクールカウンセラーが大事であり、県から中学校へ来てもらっているが小学校へは、人数が足りなくてお願いはしているが臨時で何回かは来てもらっているのので、いなければそのように対応していけばよいと思う。

療育相談員というのは、臨床心理士の資格も持っている人がいてくれると療育相談もできるし、スクールカウンセラーも臨床心理士の免許があれば充分専門性もあってできるので、そういった療育相談員が常駐していてくれるとありがたいので、学校のカウンセリングも出来るし、可能な限りあたってみてほしい。

- ・田中教育課長兼子育て支援課長 スクラムネットの方ともそのような話もさせていただくが、資格を持っている方は多くの保護者の方と子どもたちのことを支援したいと広い視野で見ている。近い将来にはそういった専門職を正規職員で雇用する時期がくるかもしれない。

(5) 小学校統合に関する考え方について

- ・田中教育課長兼子育て支援課長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、小学校統合に関する考え方に関しての発言を求めた。
- ・幅下教育長職務代理 国基準で白馬南小は、複式学級になるのか。
- ・田中教育課長兼子育て支援課長 全学年ではなく、どこかの学年でなるという試算。
- ・吉田総務課長 公共施設総合管理計画において、国が人口減少・超高齢化が進む中で、施設の見直し計画を今後30年の中で、学校に限らず施設については、15%と削減をしていくという考えの計画を立てております。施設の集約、統合化、兼用等、今の行政財産から別な目的の用途に転用して使っていく考え方もある。村が所有している公共施設についても今後見直しをしていかなければならない。図書館を平成33年までに整備、今の総合管理計画に基づき短期的な公共施設の見直し、集約若しくは廃止、一定の国からの有利な財政支援制度もあることから短期的にめざすもの、長期的に減らしていくもの、学校に限らず施設規模全体で考えていかななくてはいけないというのが今、白馬村が置かれている現状であるということも補足して説明させていただく。
- ・平林教育長 南小学校 南校舎昭和47年築45年経過、北小学校 北校舎昭和46年築46年経過しておりまして、北小学校 北校舎校教室には扉がひとつしかなく、防犯の関係上見直しが必要であり、校舎も50年経過してくればどのようにしていくべきか検討をすべき。今年ではできないが今後、中学校を含めて学校のあり方についての検討会を開いていかななくてはいけないと思う。
- ・幅下教育長職務代理 メリット、デメリットはどちらもあり、地域のこともあるの

で、そういう状況でどんなものを求めていくのか。信濃町のように小学校・中学校を統合し、新たな教育を求めていくのか。

- ・西澤教育委員 子どもたちがある程度の人数がいる中で切磋琢磨しながら、成長して欲しい。施設の話で、図書館・給食センター個別に検討しているが最終的に例えば学校はどこがよいかとならないようにもう少し計画的に全てのことを一緒に考えた方がよいのではないか。南小学校の児童が減少していくなかで、複式学級になるまで待たなくても早い段階でどうしていくべきか。長い説明の期間をとって、住民・保護者の方々にも納得していただくようにしていくべきだと思う。
- ・下川議長 何れにしてもある程度時間をかけて住民に説明もしていかななくてはならない。児童・生徒数減少、施設老朽化も含めて会議の中で村民に対して現状を周知していかななくてはならない。
- ・伊藤教育委員 給食センター施工する際に、学校統合の話も出たことを思い出した。
- ・吉田総務課長 学校に限らず、何処にどのような施設を村の中におとされていくのか見えてこない。全施設が北だけになれば住民感情もあるので、個別計画で各課に投げている計画もどのように集約していくか。どの施設を残していくのかそれも関連づいてくると思う。その中で今後どの施設を残して、どの施設がどのようにあるべきか全体的なものが見えないと学校だけ、図書館だけの話ではないとのご意見のとおりだと思う。全庁的に話はしているが喫緊に感じていないところもあり、再度個別計画をやっている途中なので、改めて周知させていただきたい。
- ・西澤教育委員 学校を統廃合した場合、跡地を図書館、道の駅などにする等、そのあとの土地利用のこともあるので、どちらが先なのかも考えていった方がよいと思う。
- ・下川議長 今日初めて、こういった協議をした。少子化、施設老朽化等あるので、いろいろの部分について進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

○その他

○閉会

- ・田中教育課長兼子育て支援課長が閉会を宣言した。